

一般口演

一般口演10

看護情報1（看護記録のICT化とデータ活用）

2018年11月24日(土) 09:00～11:00 C会場 (4F 411+412)

[3-C-1-5] 小規模病院外来での医療記録作成の変化 看護師等の記録実態

○栗谷 美和², 井上 俊孝^{1,2}, 竹野 裕和², 田中 聡美², 片山 壽恵美², 瀬戸 僚馬³ (1.西九州大学, 2. (医) 誠心会 井上病院, 3.東京医療保健大学)

【はじめに】従来、医療記録は医師によって作成され、紙カルテでは、入院は看護師等の記録されてきたが、外来は医師以外の記録は殆ど無かった。しかし、電子カルテ導入後、地域包括ケアなど時代的背景等から、外来でも詳細な生活記録の聴取等の記録が必要になり、当院では外来看護師等の職種別業務記録（以下職録とする）が著増した。そこで、その記録を検討した。【目的】当院は2013年6月に電子カルテを導入後、外来の医療記録に看護師等の職録他の記録が著増したため、これを検討した。【対象および方法】誠心会井上病院における2017年1月1日より12月31日までの1年間の外来医療記録のアクセスログからその職種と内容を分類【結果】操作回数記述系記事（以下記述とする）164,079回 帳票系記事（以下帳票とする）89,604回 オーダー119,810回 合計373,493回操作職種記述 医師69,641回 看護師63,005回 診療放射線技師16,545回 その他14,888回帳票 医師25,362回 連携事務17,079回 医療事務12,812回 看護師12,415回 その他21,936回【考察】外来では端末アクセスのうち約44%を記述、残りをオーダー等が占めている。そのうち、主に医師記録および職録に当たる記述と帳票類の取り込みの帳票の回数の割合をみると記述は医師42%看護師38%その他の職種20%と医師と看護師が拮抗しており、帳票は医師28%でそれ以外は20%以下であった。【まとめ】外来医療記録の作成状況を検討した。以前は殆どが医師による作成だったが、当院では、電子カルテの導入以降看護師等の職録による記録作成が行われ、その数は医師に近い数字を示している。また、医師事務作業補助者の導入による代行入力があるが、当院でも代行による様々な文書作成、特に連携業務における文書の作成数も無視できない数である。当院は電子化以降、外来医療記録への入力が多職種化し量的に著増した。今後、外来における職録や帳票の内容等について検討していく予定である。

小規模病院外来での医療記録作成の変化

－ 看護師等の記録実態 －

栗谷 美和^{*1}、井上 俊孝^{*1*2}、竹野 裕和^{*1}、田中 聡美^{*1}、片山 寿恵美^{*1}、
瀬戸僚馬^{*3}

*1 誠心会井上病院、*2 西九州大学健康福祉学部、*3 東京医療保健大学

Changes in medical records creation in small-scale hospital outpatient - Actual state of records of nurses and others -

Miwa Kuriya ^{*1}, Toshitaka Inoue ^{*2}, Hirokazu Takeno ^{*1}, Satomi Tanaka ^{*1}, Suemi Katayama ^{*1}, Ryoma Seto ^{*3}

*1 Seishinkai INOUE Hospital, *2 Nishikyushu University, *3 Tokyo Healthcare University

Abstract

Traditionally, medical records have been created by doctors, in the case of paper charts, nurses, etc. were also recorded in hospitalization, but in the case of outpatient there was almost no record except for doctors. However, after the introduction of the electronic medical record, records such as listening to detailed life record and more are necessary for outpatient from the background such as regional comprehensive care, etc. In our hospital outpatient service record by nurse and others has increased by job category. Therefore, I examined the record.

Keywords: medical records, outpatient, nurse, small hospital

1. はじめに

従来、医療記録は医師によって作成され、入院は看護師等の記録も作成されてきたが、外来の場合は医師以外の記録作成はほとんど無かった。しかし、近年診療報酬や地域包括ケアなど時代的背景等から、外来でも詳細な生活記録の聴取等の記録が必要になり、当院外来では紙カルテ時は記録して無かった看護師等の職種別業務記録等（以下職録とする）が電子カルテ導入後著増した。そこで、職録を中心に検討した。

2. 目的

当院は2013年6月に電子カルテを導入し、それ以降、以前から記録の必要があった病棟のみならず外来で看護師等が職録等によって医療記録に記載すること著増した。これについて何故、記載することになったか外来の看護師にヒアリングを行ったがその理由が明確ではなく、このため、これについて、その内容分析することから、今後の業務改善に生かすところがないか検討することとした。

3. 対象および方法

誠心会井上病院（福岡県糸島市：以下当院とする）における2017年1月1日より12月31日までの1年間の外来医療記録のアクセスログを抽出し、その職種とその内容について分類し検討した。

3.1 対象病院について

誠心会井上病院は福岡県の福岡・糸島二次医療圏の糸島市に所在する1968年11月開設の病床数73床の小病院である。所在する糸島市（人口約10万人）において

糸島医師会病院（150床）に次ぐ規模の一般医療施設であり診療内容は、地域のかかりつけ医機能と共に市内における二次救急、緩和医療、検診（住民・職場）等を行っている。

DPC データ提出病院 病院機能評価機構認定病院

病床種別 一般 36床 地域包括ケア 21床 緩和ケア 16床 合計 73床

電子カルテ（ソフトマックス） 検診システム（ソフトマックス） PACS（FUJIFILM）他 部門システム

診療科目 外科 内科 整形外科 在宅医療

画像系検査器械 放射線：単純 透視 CT(64) MMG

内視鏡：上部消化管 下部消化管

その他：超音波（一般 心血管）

詳しくはホームページ(<http://sih.or.jp>)を参照

4. 結果

2017年1月1日より12月31日までの外来患者医療記録を抽出したアクセスログの内容を検討した。最初に外来医療記録内容を分類した。（表1）

表1 記事数

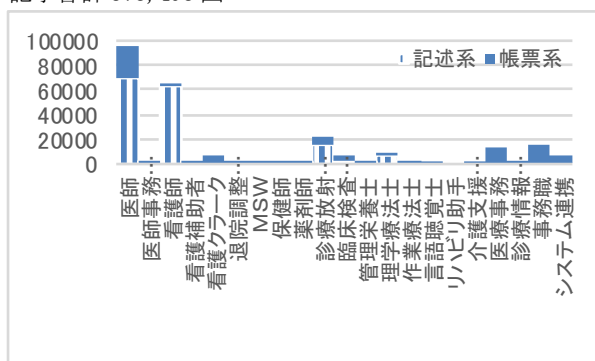
記述系記事	164,079
帳票系記事	89,604
小計	253,683
オーダー	119,810
合計	373,493

記述記事：各職種記入 医師記録、看護記録

帳票記事：各職種記入 定型文書

オーダー：医師のみ記入 薬剤処方 諸検査指示

オーダー119,810回
記事合計 373,493回



(図1)記録別職種別アクセス回数

記述記事 医師 69,641回 看護師 63,005回 診療放射線技師 16,545回 その他 14,888回
帳票記事 医師 25,362回 連携事務 17,079回 医療事務 12,812回 看護師 12,415回 その他 21,936回

(表2) 記録別職種別アクセス回数

職種	記述系	帳票系	合計
医師	69641	25096	94737
医師事務補助者	382	266	648
看護師	62400	3791	66191
看護補助者	6	1606	1612
看護クラーク	599	7018	7617
退院調整看護師	555	324	879
MSW	1024	431	1455
保健師	34	382	416
薬剤師	57	19	76
診療放射線技師	16454	6037	22491
臨床検査技師	1936	4371	6307
管理栄養士	73	1743	1816
理学療法士	6711	2150	8861
作業療法士	1484	535	2019
言語聴覚士	0	1	1
リハビリ助手	1233	0	1233
介護支援専門員	0	1	1
医療事務	1156	12812	13968
診療情報管理士	12	5	17
事務職	322	16324	16646
システム連携	0	6692	6692
合計	164079	89604	253683

5.考察

外来では、端末アクセスのうち約44%を記述系記事で、残りがオーダーと帳票系記事であった。医師のみに限定され指示行為だけであるオーダーを除き、主に医師記録および看護記録に当たる記述系記事と、帳票類の取り込みが主体である帳票系記事について見ると、回数の割合は記述系では医師42%看護師38%その他の職種20%と医師と看護師が拮抗して多く、帳票系記事は医師28%

で、それ以外は事務系や放射線技師が多いものの各職種とも20%以下であった。

6.まとめ

電子カルテ導入により、当院では、外来において医師以外の職種による医療記録の作成が著増した。このため、他医療機関はどのような状況かを調べてみると、現在でも看護職には全く電子カルテに記録を作成させない施設から当院と同様な状況の施設まで、様々であり、その状況の調査するのはこれからのようであった。

現状でも問診などは看護職が行う事が多く当院の場合を見てみると時間内はトリージナーズの役割である。また、訪問診療の場合には看護職が同行するため、看護記録や画像記録等を行うこともある。

最近の診療報酬改定では特定事項の看護職記載を条件とするもあり、外来看護職の医療記録作成の必要性は増加している。そこで、電子カルテ導入済みの小病院である当院の外来医療記録の作成状況について検討した。

電子カルテ導入以前の外来医療記録は大半が医師による作成で他職種では作成されなかったが、電子カルテの導入以降は、看護師等多職種の記録作成が行われ著増し、看護記録は医師記録にほぼ近い数字を示している。さらに、最終確定入力に医師のため今回はその数字は出ていないが、医師事務作業補助者の導入による代行入力があり、当院でも代行による様々な文書作成を行っている。このため、実際の入力では現状の外来でも看護師の入力量は医師を超えている可能性がある。また、帳票系では連携業務における文書へのアクセス数も無視できないようである。

7.結語

当院は電子カルテ導入以降、外来医療記録への入力が多職種化し量的に著増した。医師や看護師の入院業務については様々な業務軽減が考えられているが、外来の看護師も記録の必要性も増加しているため、今後、その外来における職録や帳票の内容等について検討して対策する必要がある。